

令和7年度 第1回 秋田県立農業科学館運営協議会（議事録要旨）

1 日 時 令和7年7月23日（水） 13:30～15:00

2 場 所 秋田県立農業科学館 多目的ホール

3 出席者 秋田県立農業科学館運営協議会委員7名

4 議事概要

（1）報告（①～③について事務局から説明）

①令和6年度 農業科学館事業実績について

②令和7年度 農業科学館事業について

③令和7年度 あきたMuseum機能強化事業

「Museum特別展充実事業」の外部評価について

【質疑】（○：協議会委員、■：事務局）

○ 秋田犬パトロール隊出動式には300人の方が来てくださっており、とてもすごいイベントだったと思っている。継続して行っていけば集客に繋がるし、犬の散歩をクマ避けに繋げ、イベント的にしていくというのはとても画期的だなと思った。どういう経緯で行ったのか。

■ これまでも敷地内で犬の散歩をされる方がおり、職員と顔見知りになったり挨拶したりするような仲から犬の散歩をクマ避けに繋げるアイデアが出てきた。パトロール隊としての認定式などイベント的なところでも参加してもらっている。

○ バラフェスタ期間中に行われた牛乳普及協会のイベントの参加者数がすごい人数になっている。牛乳のイベントは季節に関係なく出来ると思うが、これを分散して開催すればもっと来場者数を増やせるのではないかな。

■ 牛乳普及協会に関しては、令和7年度も2日続けて来ており、去年の状況ははっきり把握していないが、暑くて牛乳を飲んだとか、会場に涼みに行った方がたまたま多かったのかなという気もするし、牛乳の味を変えるミルメイクを多数持ってきてくれていたようで、そういうものに興味を引かれたのかなとも思う。

何回かに分けて開催するというご意見については、先方の事情もあるため、このあと検討してみたい。

○ 新聞に県立社会教育施設在り方検討委員会の報告が出たという記事があった。

12施設が対象ということで農業科学館もその1つだが、現施設の維持保存を前提に老朽化対策、機能強化を行うことを求めたと書かれていた。これを受けて何か着手しているか。

■ 老朽箇所の修繕や展示室のLED化等については、施設を所管している課所に要望を出している。

機能強化の面では、今までにない取組として、秋田犬と触れ合えるというようなことをアイデアとして出したり、テレビ局とタイアップしてグリクラパークというイベントを行っている。来館者を多くするための今までにない取組を少しずつではあるが行っているところである。

(2) 協議（議題：他の機関等との連携について）

【内容】（○：協議会委員、■：事務局）

- 個人的には海外の農業教育がどういうふうに行われているか興味がある。県内研究機関のほか国際教養大学の留学生からも協力を得ながら、各国の農業だとか、農業教育についてのパネルなどの展示を協力していただくのも1つの連携のあり方ではないか。

■ 有難い貴重な意見である。

- 保育園ではサツマイモの収穫を行っており、昔は変わった形のサツマイモを何かに見立てて展示できるようアレンジして農業科学館に持って来ていた。それを展示すると、保護者の方々と毎年それを見に来ていた。いつからかやらなくなったが、昨今の連携事業には保育園との連携がないので検討してはどうか。

また、リンゴ狩りや遠足も毎年楽しみにしていたが、クマの出没情報が入ると行き先を変更したり外出を控えたりする園もある。コロナ禍以降はクマの出没や熱中症、自然災害などの問題が続いており、狭い範囲で保育をしている。是非この地域の子どもたちがいつも農業科学館に来て楽しく伸び伸びと自然に触れて楽しめる環境であってほしいと思う。

- 委員のお話を伺って、変わった形の野菜展を開催するのも面白いと感じたところである。本館への遠足時にクマの出没に関する問い合わせもあり、保育園もナーバスになっていると感じている。大仙市に協力してもらいリンゴ園に電気柵を昨年設置した。今年も設置予定であり、安全にいろんな方に来ていただけるよう今検討しているところである。子供たちに農業の楽しさや面白さを啓発できれば良いと考えており、委員の意見は有難く参考にさせていただく。

- ツキノワグマがどういう生き物かとか、農業との関わりとか、どういうふうに共生したら良いとか、いろいろ問題が山積みだと思う。クマとはどういう生き物だとか、農業科学館では電気柵で工夫したり、犬のパトロールをやってクマと人間との境界線を作ったりしているというパネル等があれば良いのではないか。

- ただいま秋田県立大学の研究紹介展を展示室で開催しており、展示物の中にクマ

避けの柵というものがある。野生動物をどうこう取り扱えるのはおそらく農業の分野しか多分ないのかなと考えれば、クマはこういう生き物なんだという展示をするのも有りなのかもしれない。検討させていただきたい。

- 以前は県外から高校生などが、農業体験とか農家民宿での宿泊とかで沢山来ていたと思う。コロナ禍で県外からの生徒たちが来なくなったと思うが、旅行会社との連携などで新たに県外からの生徒を呼び込むのも1つだと思う。

福祉関係への呼び込みもあれば良いと思う。障害福祉の分野でもレクリエーションとか、障害者の生涯学習として県の施設を活用させていただいている。県の福祉部署に頼むと福祉施設に一斉メールしてもらえる。どういう行事をやっているか知らないとなかなか足を運ばないので、県の高齢サービスや障害関係を所管している部署から一斉メールしてもらい、県内外の福祉施設に働きかけてみてはどうか。出来ればバリアフリー状況なども情報提供してもらえると来やすくなると思う。

- 他県の中学校などによる農業体験は、コロナ以前のようにはまだ活発ではないようだ。

当館は生涯学習施設であり年代の高い方々まで対象なので、委員のおっしゃるとおり幅広く、特に福祉関係の方々への情報提供というのは必ずしも万全ではなかったと思う。いろんな方々に来ていただけるよう方策を見直してみたいと思う。

- 小学校も中学校も総合的な学習の時間で農業について調べたことを学校でいろいろ発表などしている。例えばそれを農業科学館に来てポスターセッションとかで発表すると、PTAみたいにお家の方々もいっぱい来てくれるのではないかな。子供たちにとっても自分のクラスの親だけじゃなく、様々な地域の方から発表を聞いてもらうことで表現力とか発表力が身についていくと思う。

来年度からこの地域の小中学校3校がコミュニティスクールを立ち上げることになる。これまでは学校独自で学校評議委員の方と話し合っているいろいろな決まっていたものを、来年度からは中学校区で取り組んでいこうと計画している。そうしたとき、例えば中学校の生徒が農業科学館に来て、総合的な学習の時間で調べた農業のことを発表したりだとか、そこに小学校も来て何か発表するとか、そういうふうなことがもしかしたら出来るかなと思っている。

- 地域のそういう情報はあまり入ってこないなので、すごく有難い意見である。

コミュニティスクールにぶら下げてもらうかはわからないが、何かイベントがあるときに場所の提供と、場合によっては合同研究発表会の協賛みたいな形で関わらせていただくとか、そういった方法もあると思う。来年度の事業計画を詰めていく上でご意見を参考にしていきたい。

- 私は酒造会社に勤めているが、醸造試験場でお酒、味噌、醤油の分析をしてもらい、そこで鑑定評価をしてもらっている。そういったところと連携して、お酒や味

嚙が出来るまでを子供たちに紹介してみてもどうか。

また、当社では米も作っており、近くにはクマがよく出没する。クマにいざあった時にどうしたら良いかわからないという人が非常に多いし、観光で来た方は興味本位で近づいてしまう場合もあると思うので、危険だとか、いざ遭遇した時にどうしたら良いのかということを知る場所として、猟友会の人たちによる講演や教えてくれる場を設けるのも良いのではないかな。

- 農業科学館は、クマ対策のレクチャーというか、そのようなことが出来る場所という立ち位置でもあるのかなと思うし、発酵食品については他にもご協力いただいている団体もあるが参考にさせていただく。